

# 武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006  
 武蔵野市中町1の13の1 3F  
 電話 0422(51)3131  
 FAX 0422(51)3133  
 musasino@yomiuri.com  
 都内版編集室  
 電話03(3217)1465・1466  
 江東支局 電話03(3631)6116  
 立川支局 電話042(523)4477  
 ホームページ  
 www.yomiuri.co.jp/local/

購読は  
**0120-4343-81**

【広告】読売Palette 03(6272)9027  
 【折込チラシ】 0120-03-4343  
 【読売旅行】 03(5550)0666

11月15日(日曜日)  
 旧 10月1日<仏滅>

あすの暦

通日 320  
 月齢 29.3  
 (正午)



—東京標準—  
 満潮 5.00  
 16.24  
 干潮 10.48  
 23.10  
 (大潮)

今「逃げ水」と言えば、乃木坂46の歌のように、夏の暑い時にアスファルトの路面に出現する光の屈折による「ミラーシユ」としての「水たまり」を指すでしょうか。もしくは「公辞苑」が記すように、「曇気楼の一種」で「古く武蔵野の名物」「草原などで遠くに水があるように見え、近づくと逃げてしまう幻の水」と理解されるでしょうか。

## 文人の武蔵野

# 「遁世」イメージ重ね

## 逃げ水



道路が舗装された現代では、強い日差しの中に「水たまり」が見える現象を「逃げ水」と呼ぶことがある。

かつて逃げ水と言えば武蔵野の序詞でした。逃げ水は、「幻の水」ではなく、武蔵野地方に特有の低所に発生する霧や霞、あるいは水の流れが地中に隠れる伏流水として京の都に知られていました。

むらさき(紫草・紫根)とともに、武蔵野の地に根差した名産・名所として歌枕化されていました。平安後期を代表する歌人源俊賴は「あづまぢにありといふなるにげ水のにげのがれてもよをすべすかな」「恨躬恥運雑歌百首」と詠んでいます。(都からみて東方の)武蔵野で見えろと言う逃げ水のように、現世を逃れて遁世しても結局この世のしがらみの中で生きているのだなあ、が歌意です。この世に生きながらも逃れようとする者と逃げ水のイメージとが見事に重なります。

武蔵野の逃げ水は、舗装された道などなかった時代の自然現象です。単なる錯覚ではないため、中国語源の曇気楼(海市蜃楼)や英語語源の mirage で言い換えるのは無理があります。

### おすすめの1冊

#### 「源俊賴(コレクション日本歌人選)」

平安後期、歌壇に新しい風を吹き込んだ当代随一の歌人、源俊賴。その代表作を鑑賞できる一冊をおすすめします。俊賴個人の歌集に収録された逃げ水の歌は、よく知られているものの、残念ながら一般書籍の形で確認するのは難しいようです。



(笠間書院提供)

武蔵野のイメージも逃げ水に重なります。「3密」から逃れてゆくように形成されてきた東国や郊外から、逆に京都や東京のような中心部を照射する場として武蔵野を捉えてみたいと思います。

(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)